



「暮らしに冬の彩りを」

---

# WISH TIMES

---

VER. 40  
2020 DECEMBER

# 目次

- 3 満たされているという気持ち
- 6 四畳半+0.2神話大系 in WISH
- 10 古着と高円寺
- 13 Pick Up! SIプログラム・イベント
- 17 RA'sライフを覗き見！
- 20 12月お悩み相談コーナー



# 満たされている という気持ち

ライター：Haruka  
デザイン：Yukie  
翻訳：Toshiki





この冬は、はじめて私がひとりで迎える冬である。寮に入っていたって、三十分で会える距離に兄が住んでいたって、そのことに変わりはないつもりでいる。

自分が洗うタイミングを決める枕カバーと、まだ毛布のないベッド。長袖になった部屋着。冷え込む朝。息を深く吸うと鼻の奥が乾く予感。私ひとりに来る冬。

できるだけ満たされている冬にしたい。満たされている、というのがどんなものなのか、正直まだよくわかってはいないのだけれど。

今日は、今の私が「満たされている」と考える三十一文字の話をしたい。

## 『「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ』 一俵 万智

有名な一首だ。見るからに満たされている。シンプルで、でも「分かる、分かる」と思わず言いたくなる内容。何となく陳腐を感じる人は、たぶん有名になりすぎたこの歌にどこかで触れすぎてきたのだと思う。

相手は今まさに横を歩いているのかもしれないし、遠くとおく離れたところにいて電話越しに話しているのかもしれない。でもどんな状況であったとしても、寒いね、と人が話しかけると、もっと言うと寒いね、と話しかけたことを人が意識しているとき、そこにいる相手はきっとその人にとって特別な誰かだ。

しかし、この言葉は「寒いね」でなくても、その人と共感したい小さな何かならよいと思っている。「星がきれい!」「きれいやね」とか、「ダンゴムシがいる」「ほんとだ」とか。短歌としての技巧的な面でいうと、この続けられた『「寒いね」と』が口にしやすさ、覚えやすさ、すなわち愛唱性を高めていたりするのでむやみに変えることは愚策だ。しかし短歌というのは私たちが読むとき、どのようにして読んでもよいものである。字のまま受け取らなければならないという決まりはない。歌の芯の部分に共感できて、そのうえで解釈するのなら、その解釈は決して間違っていない、正しい読み方なのである。

ついでに、この歌について私の意見をもうひとつだけ聞いてほしい。この時のセリフは、「会いたいね」はだめだ。会いたいね、はこの歌のささやかな幸せ、つまりは「あたたかさ」が背負うには少し重たすぎる。二人のことではない何かがここには入るべきなのだ。そして二人のことではないものを、二人のものにするのがこの歌なのだ。少なくとも私はそんな気がしている。





ここで短歌というものについての簡単な説明をしておく。短歌というのは、五音・七音・五音・七音・七音、計三十一音からなる世界で二番目に短い詩の形である。(ちなみに一番は俳句だ。)三十一文字、と書いて「みそひともじ」と読む。短歌の歴史は半端なく長いですが、ここで取り上げているのは現代短歌のなかの、口語調、つまり話し言葉で作られた作品だ。短歌の歴史を知らなくても短歌は楽しめるので、このあたりは話半分で大丈夫だ。いい短歌はいい、と感じられる。なぜならそれがいい短歌だからだ。

もうひとつ、私の好きな歌を紹介する。

『鎌倉で猫と誰かと暮らしたい 誰かでいいしあなたでもいい』  
—佐藤 真由美

私は最初、さみしさに負けているときの歌なのだと思っていた。さみしい、ひとりはずらい、誰でもいいからこの孤独感を紛らわしてほしい、そんな、ほの暗い歌。

でも今は、一緒に住むのはほかでもないあなたではなくてはいけないのだ、と思っている。「誰かでいいしあなたでもいい」としたのは、作者の照れ隠しか、もしくは相手への逃げ道を残している愛みたいなもので、これはゆるやかで穏やかな告白なのではないだろうか。

後者の解釈でこの歌を読んだ時の、静かな気持ち。そしてその気持ちをもつこと。それは満たされている、ということのような気がする。

歌はいろんな表情がある。作者が歌を作ったとき考えていたことはひとつなのかもしれないが、読まれ方は一つじゃなくていい。あなたはこの歌を読んでどう思っただろうか。

好きな歌はたくさんある。しかし好きすぎる歌は教えられない。好きすぎるがゆえに人に聞かせられるような評ができないし、そもそも私が好きなものは独り占めしたい性質だからだ。出し惜しみしたくてしている。これは許してほしい。

だがここに挙げた二首が私のお気に入りの二首であることに違いはない。この歌を読んで湧き上がる気持ち、私が考える「満たされている」をあなたと共有できているのなら、それはとても嬉しいことである。

参考文献

俵万智(1987)「サラダ記念日」河出書房

佐藤真由美(2002)「プライベート」マーブルトロン



DEC.VOL

# 四畳半+0.2神話大系・ IN・WISH

ライター：DAICHI

翻訳：NAOMICHI

デザイン：TINA



WISH Times12月号のキーワードは「冬・オシャレ・ライフスタイル・QOL」だそうだ。冬以外の三つに縁のない私にとって、この時点で半分ペンをへし折られたようなものである。シワのない脳みそを捻った末に思い付いたのが、寮生の個性的な個室を紹介するという企画だった。なるほど、これなら自身の美的センスの有無など関係ないではないか！我ながら妙案である。しかし、現実はそう甘くはなかった…。

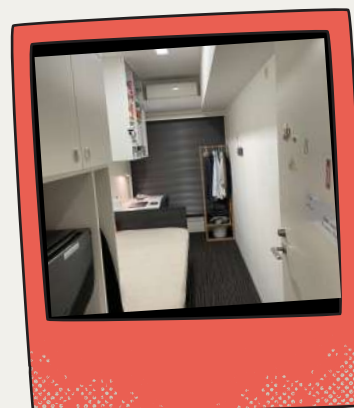
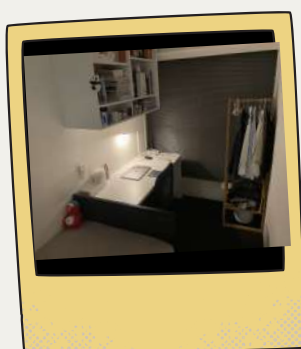
さて、WISH一般寮生の個室の広さは約4.7畳。この広すぎることも狭すぎることもない空間を生かすも殺すも寮生次第。872の個室には872通りのインテリア。「四畳半+0.2神話大系・in・WISH」と題した本記事では、WISH寮生3人+ $\alpha$ の個室を紹介していく。因みに、ややこしいタイトルの元ネタは筆者のお気に入り・「四畳半神話大系」(小説/アニメ)。キャンパスライフを楽しみ尽くそうと思える、大学生必見・必読の一作だ。前置きが長くなったが、では実際の個室を見て行こう。





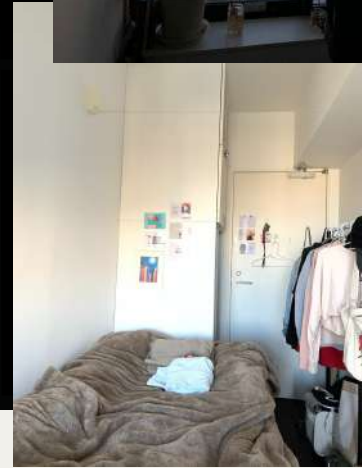
# No.1 ラル・5F

・部屋に置いてあるモノを購入する際には、暮らしを快適にする工夫を数多く施しました。まずは自室に戻った途端に点灯するドアライトが注目すべきポイントです。次に洗濯カゴやシュレッダー、ゴミ箱は、どれも空間を最適活用するべくチョイスしました。暫くして、エアコンの風が直撃することが気になってしまったので、風よけカバーも導入しました。さらに、小物やケーブルの収納を楽にするために、扉と机の下にフックも取り付けられています。



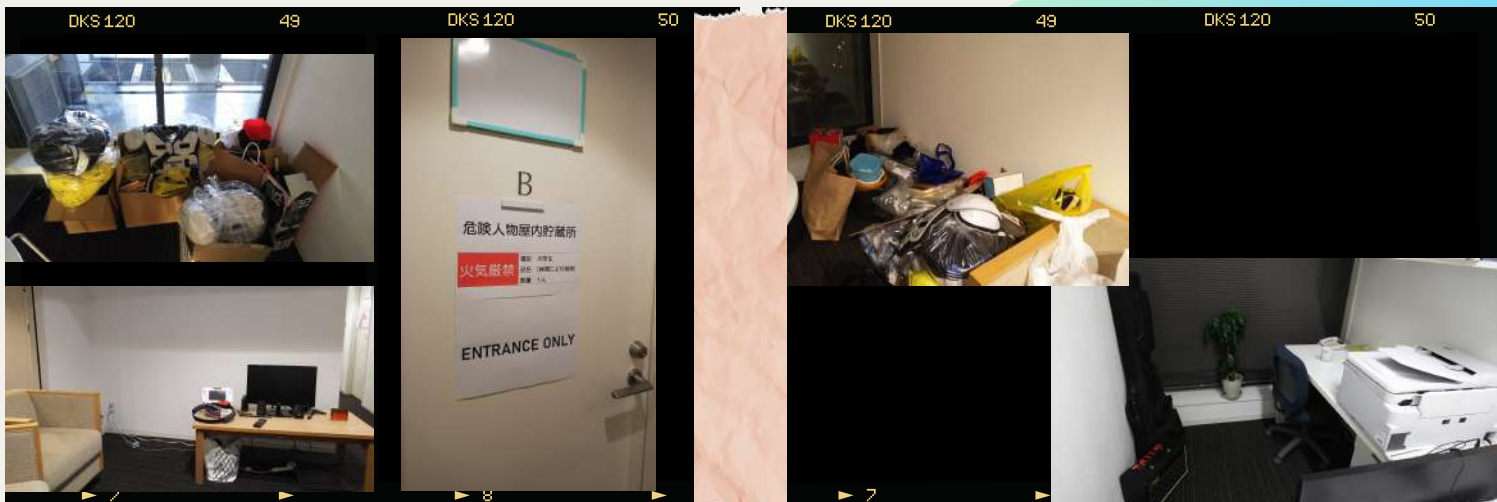
## No.2 みさと・11F

・私は自分の部屋をデザインするとき、「息ができる」「スペースがある」ということを意識しています！WISHの部屋は少し狭いので、この二つの点がこだわります。そのために、窓側になるべく物を置かないこと、そして床にスペースを作ることを注意しています。プラントを部屋に置くこともすごく好きです！プラントのグリーンで部屋に空気が回っている感じがします。苦勞している点は物をキレイに見えない場所に閉め置くことです。私はもう引き出しやテーブルの上の戸棚のスペースを使い切っているので、新しいものをどう整理するのに結構考えています。(多分ミニマリストの生活の方が合ってるのかもしれませんが。)



## No.3 だいち(筆者)・7F

・参加者が集まらず、数合わせに自分の個室を晒すというマッチポンプに手を染めてしまった…。個室自体は実に無個性だ。せいぜい、申し訳程度にエレキベースとコーヒーの木が飾られているだけである。また、これはズボラな寮生に共通の悩みかもしれないが、洗濯の間隔がずっと長くなってしまい、結果として物干しロープ上の洗濯物の行列が部屋を東西に分断してしまうのだ(通称「ベルリンの壁」)。4.7畳の冷戦構造は崩壊しそうにない。



寧ろ紹介したいのはユニットのリビングだ。今年の9月3日に入寮した私を迎えてくれたのはルームメイトとの出会いなどではない。既に退寮した先輩が残した置き土産、ただそれだけである(画像参照)。そもそも最初の入寮したての2週間は、ユニットの住人は私一人であった。そして、ここで発掘されたのは日用品だけではない。





無人島研究会(早大サークル)の大量の30年前のアルバム、Wii(スーパーマリオ入り)、台湾ドル、ノートPC…。結局、アルバムは無人島研究会が引き取ってくれたのだが、私もそれなりに楽しませてもらった。これらを遺してくれた、おそらく数代前の先輩には感謝しなければならない。もっとも、未来の後輩のために「宝の山」をリビングに築く予定は私の手帳にはない。そもそもこんな事はかなりのレアケースなので、入寮をお考えの皆様、ご安心ください。

ここまで紹介してきたのが一般寮生の部屋であるが、おまけでWISH寮生たちの生活をサポートする先輩サポーターであるRA(レジデント・アシスタント)の部屋を少し覗かせていただこうと思う。RAの部屋の間取りは広々としていて、寮生の部屋に比べて少しスペシャルである。

## No.4 レヌカ・8F RA

・乱雑の中では生活できませんが、捨てられないモノが多いので、現在の部屋では細かいバランスで配置しています。初めてRAになった時に、部屋の装飾に時間をかけ、フェアリーライトや飾り物を設置しました。そうすることで、部屋が明るくなるだけではなく、自分らしい居心地の良いスペースにもなります。さらに、2メートルという大きな熊のぬいぐるみがあり(誕生日プレゼントでした。決して自分で買いません。)、最初に部屋入る時、他の寮生たちにすごい印象を与えるそうです。



## No.5 さとし・4F RA

明るい気分になるようにポスターや床を暖色で統一しました。机は好きなものを詰め込んでいて、今までにもらった手紙を貼ったり、ポパイの人形を飾っています。あとは、こけし、スケボーをテレビ台にするなど遊び心を大事にしています。

さて、No.3は実に蛇足であったが、紹介した4つの個室にはどれも工夫が凝らされていて、筆者は尊敬の念を禁じ得ない。ベースは全て同じであるからこそ、その人の個性が生きる。真っ白なキャンバスに絵を描くつもりで、自分の部屋に一工夫加えてみてはいかがだろうか？最後になりますが、ご協力いただいた4人の寮生の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。



# 古着 と 高円寺

ライター：Satoshi 翻訳：Yui デザイン：Ainun

暇だ。何しようかな。こうなってしまうと、私の行動に選択肢はわずかである。私は、とりあえず高円寺行くか、と「とりあえずビール！」的に、とりあえず思う。WISH西側に接する道路はちょうど中野と高円寺を隔てる境界線であり、道路一つ挟んだ向こう岸が高円寺である。とはいえ、Googleマップは私の部屋の現在地を「東京都杉並区高円寺」と表示しており、地球を回る人工衛星からは私が高円寺市民に見えているようだった。

高円寺へはこの時期、冬服を着て、古着屋へ冬服を買いに行く。そしてその冬服を着てまた、新しい冬服を買いに行くのである。このループが終わるには春服の季節を待つことになるが、冬服が春服に変わるだけの話であり、私の財布が満たされないことに変わりはない。

とは言うものの、着る服に執着しているわけではない。が、素っ裸で出歩くことが社会的に許されないというのなら、せめて、自分に合う、もしくは自分の好みに合う服を身に付けたいと思う。今回は高円寺を愛し、宇宙規模で考えて高円寺市民であるRAさとしから、古着と高円寺についてお話する。

当初は、同じ題名で、私がおすすめする冬服のコーディネートを紹介しようと思ったが、私が蛍光色を好んで着ることなどから判断すると、体験談を中心として、その中でおすすめの古着屋を少し登場させるくらいに留めておくのが、読者にとっても、私にとっても具合が良い気がする。ということで今回は、古着と高円寺を取り巻いて起きた（どちらかといえば奇譚に分類されるような）私の体験談である。

## 服のセンス

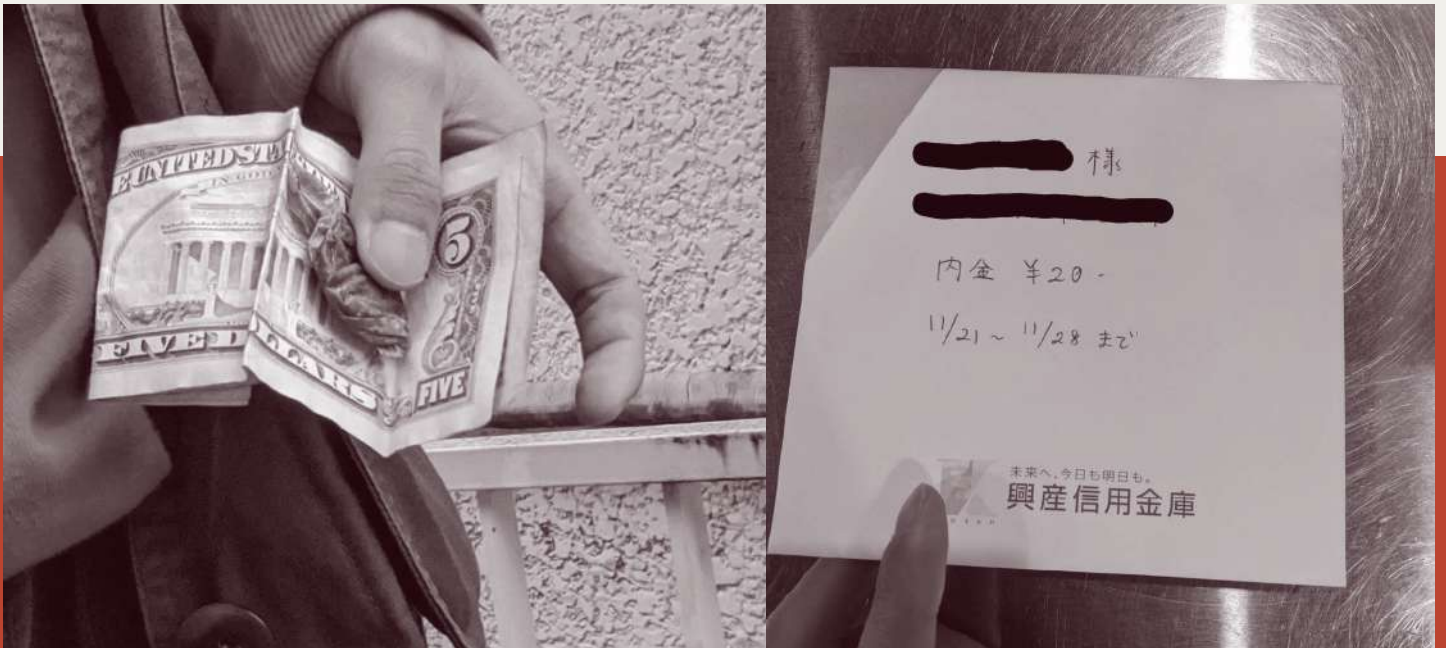
私の服のセンスは一時期、常軌を逸していた。そのことに気づかされたのが、このお話である。私が好きな高円寺の古着屋に「Hello Barbara」というお店がある。このお店は、「流行を取り入れる事。でも型にはまらない事。」をコンセプトに、風変わりではあるものの、目立ちすぎない、実に私好みの服が並んでいる。私はそこで、小さなポケットがいくつもついたベストを見つけた。店員さんに聞いてみると、それは「グレネードキャリアベスト」という種類のベストであるらしい。元々、軍隊で実際に使用されていたベストで、いくつかある小さなポケットは手榴弾を入れるためのものであったことがわかった。私は手榴弾入れという無駄なギミックに愛らしさを感じ、購入するかどうかを激しく迷った。苦渋の選択だったが、私は最終的な決断を来週に見送った。



しかし、次の週店を訪れたときには、そのベストはなくなっていた。店員さんに聞いてみると、「この服全然売れなかったんですけど、ちょうど先週の同じタイミングからお兄さんともう一人のお客さんが購入するか迷われてたんですよね。そして、ちょうど昨日そのお客さんが買われて行ったんですよ。ドレッドヘアーでタトゥーだらけのラッパーの方でした。」私は自分のライバルがラッパーであり、自分の服のセンスがタトゥーだらけの人と同じであったことに衝撃を受けつつ、古着というのは一期一会であり、一度買う機会を逃してしまえば、もう二度と出会えない、という教訓を得た。

## ポッケのワシントンとチョコレート

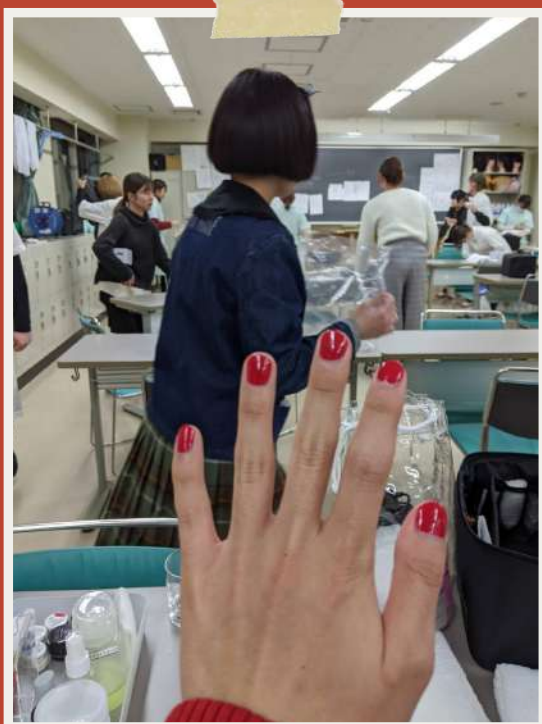
高円寺の古着屋のチェーンといえば、アルバトロスが筆頭に挙げられる。高円寺に系列店が4店舗あったが、今年8月ごろに5店舗目がオープンした。私がアルバトロスの2号店で「ハンタージャケット」というアウターを購入したときのことである。外が寒かったので、私は買ってすぐにそのジャケットを着た。そして、冷えた手を温めるために、ポケットに手を突っ込んだ。すると、1枚の紙と柔らかくて小さなボールのような感触があった。取り出してみると、第16代アメリカ大統領エイブラハム・リンカーンの描かれた5ドル紙幣と透明のプラスチック紙に包まれたチョコレートだった。私は驚くというよりは、古着の味はこのようなどころにあるのだと、面白みを感じた。とはいえ、記念に取っておくほどの情緒は無く、実利を取った私は、即、高円寺の換金ショップへ向かった。なんとなくの相場で、約500円で換金されることを想定していたが、実際に私が渡されたのは300円だった。旧デザインの5ドル紙幣だったから、ということらしい。ここで一つだけ不安がよぎった。ではチョコレートはいつの時代のチョコレートだったのだろうか。



## 20円の恩

skipperというお店がある。この店はカラフルで遊び心のある服が多い。りゅうちえるが御用達の古着屋といえば、説明は十分だろう。私はそこで、この機会を逃せば一生出会えないと思える服に巡り合ってしまった。しかし、その時の私の財布では明らかに買うことができなかった。諦める私を見て、店員さんが置き置きを提案してくれた。しかし、それでも置き置きにはその服の値段の30%の料金を支払う必要があった。恥ずかしい話ではあるが、それさえも当時の私には難しかった。「すみません。今本当にお金がなくて…」と言うと、「じゃあ、いま財布にある分だけ払ってもらえれば置き置きします。」と、寛大なサービスをしていただいた。古着は一期一会、このチャンスを逃さずに済んだことに、私は歓喜し、財布を逆さにした。ぽろりん。20円。しまった。まずい。これはいけるのか。でも財布の分で良いて言ってたし。いやさすがにかな。店員さんは確実に2桁の数字を、想定してるはずはなかった。私は恥を忍んで、「これが全財産です…」と、一か八か私はその全資産を手渡した。すると店員さんは拒むどころか、むしろ私の食生活を心配してくれた。「これで置き置きしておきますね」私はこのお店に一生ついていくと決めた。ただ、給料日まであと1週間。ひとまず私は冷蔵庫の少ない食材で生き延びなければなかった。

WISHの1階にはコンビニエンスストアが併設されている。私はそこで働く店員さんにいきなり、「Instagram見ましたよ」と声をかけられた。私は全く分げがわからず、どういうことか聞いてみると、この店員さんの行きつけのお店もskipperであり、以前私がInstagramのお客さんスナップに載った時の投稿を見て、声をかけてくれたということだった。私はそれがきっかけでその店員さんと仲良くなり、何度か高円寺に足を運ぶような古着友達になった。あるときその店員さんに夜ご飯のコンビニ弁当のお会計をしてもらっている時、「ネイルモデルやらしてもらえませんか?」と言われた。その店員さんは窪田美容専門学校の学生で、ネイル検定という資格の実技試験では、ネイルをする相手が必要ということだった。長くなるので、詳細は省くが、とにかく私の爪はジェルネイルで真っ赤に塗らた。ジェルネイルは軽く削っただけでは取れないほど強力で、ネイルを取るには爪が伸びきるまで待つか、ヤスリで丁寧に削り取るしかない。私は古着屋のスナップからまさか自分の爪が赤くなるとは思ってなかった。私は古着を取り巻く奇妙な因縁に感嘆し、冬の夜空を見上げた。見上げたついでに、私は次の週、東京で親と会う用事があることを思い出した。



「明日、マッチングアプリでマッチした人と遊ぶんだよね。」と友達が話していた。どんな人か聞いてみると、同じ年齢の社会人の方らしかった。「なんか高円寺の古着屋の店員さんらしいんだよね。」私はまさかと思った。私はすぐに友達のスマホを奪い取り、写真を見た。スマホに写っていた人物は、私が一番よく行くお店の、一番仲の良い店員さんだった。私は仰天し、すぐにそのことを友達に伝えた。友達は私にスマホを向け、写真を彼女に送った。すぐに返信があり、「え、嘘。この人すごい仲良しのお客さん。」その夜、私と友達と仕事を終えた彼女とで、渋谷のハチ公前で待ち合わせをした。彼女は駅の改札から出てくると、マッチした私の友達を横目に、私の方に飛び込んできた。「お客さん！（名前は知らない。）」「店員さん！（名前なんだったっけか。）」とにかく、私たちは凄まじい縁と巡り合わせに終始興奮していた。マッチングアプリにはこのような出会い方もあるらしい。

古着と高円寺にまつわる奇妙な縁の話はこれくらいにしておこうと思う。古着は一期一会であることは本記事で繰り返してきたことであるが、古着を売る古着屋もまた一期一会である。このコロナ期間中になくなってしまった店を私は何店舗も知っていて、そこにはすぐに新しいお店ができた。高円寺の商店街の景色は日々変わり続けている。新しい街並みの記憶に更新されてくのも東の間、また新しい景色になっていく。それは代謝のようでもあり、街はそうして新鮮さを保っているのかもしれない。私は朝起きて、冬の寒さに体を硬らせながらクローゼットを開ける。古着独特の匂いと鮮やかな服の一着一着が思い出を刺激する。やっぱり、社会的に全裸で出歩くことが許されるようになったとしても、服を着る派でいたいと思った。少なくともWISHにいるあと1年と少しの間は私の、古着を着て、古着を買いに行く生活が続いてくだろう。

# Pick up! SIプログラム・イベント

ライター: Kento | 翻訳: Renuka | デザイン: William

## SIプログラム

### 生け花

SI: ゆうき (商学部)



なぜ生け花体験に参加したのですか？

僕はもともと日本の伝統文化に興味があり、大学生になったらそれらに挑戦したいと思っていました。WISH入寮前から茶道や生け花体験があることを知っていたため、今回の講義への参加を決意しました。

生け花の講義はどのようなものでしたか？

今回の講義では「生け花に触れてもらう」をコンセプトにしていました。最初は型などの生け花の専門知識について教えてもらったので知識が無くても大丈夫でした。細かいルールは気にせずのできたので、初心者でも楽しんで生け花ができました。また、先生が生け花を綺麗に見せるアドバイスをくれたので、講義後にも生け花をしてみたいと思える体験でした。



生け花体験に参加してみた感想は？

今回はオンラインだったので少し残念でした。ですが、知識がほとんどない状態で挑んだ僕にとって今回の生け花体験は非常に有意義でした。今回の講義をきっかけに生け花に対する興味がより持てたので、生け花をしっかりと習って細かいルールを覚えていきたいです。



最後に生け花体験を皆さんに紹介してください。

WISHで日本の伝統文化に関するSIプログラムを企画するなら、どのようなものにしたいですか？

今まで、僕は日本の伝統文化を本格的に習ってきたことはないのですが、自分から発信することは難しいと思います。ですが、その道の先生をお呼びすることで、オンラインだからこそできることに挑戦したいです。講義を聴くことはもちろんですが、より体験の場面が多いSIプログラムを提案したいですね。

僕はもともと生け花に興味があって参加しました。ですが、興味がない人でもやってみると楽しいと思います。なので、興味がない人も今回のような講義に参加することをお勧めします。日本人だからこそ、日本の伝統文化にもっと触れてほしいです。WISHという場所を活かして、未知の世界に踏み出してほしいですね。

# 快適さとは何か

SI：ユウジン（創造理工学部建築学科）

11月4日(水)  
寮生主催SI



## 快適さとは何か？

理想の暮らしとともに考える

日時：

11月4日(水)19:00~20:30

@ZOOM

THIS PROGRAM IS HELD ONLY IN JAPANESE.

田辺新一（田邊 新一）

早稲田大学理工学術院  
創造理工学部建築学科教授・工学博士  
専門分野：建築環境学

人にとって、地球にとっての  
快適さとは何か。  
建築でどのように実現しているか。  
快適さを考えさせるワークと、  
先生からのフィードバックもあり！  
学びのある時間を過ごしましょう！

続いてSIの内容に関する質問をさせていただきます。

これからの建築はどのようなになると思いますか？

環境に対する視点をもっている建築家がこれから増えていくと思います。その中で、ゼロエネルギーハウスのような環境に良い建物の建築が進んでいくでしょう。

ご自身が考えるサステナビリティな家とは何ですか？

日本の建築業界では建てては壊してを繰り返しています。その環境の中で、建築する際に出るエネルギーと建築物を使っているなかで作られられたエネルギーが相殺され、ゼロになるような循環を作り出すのがサステナビリティな家だと思います。これはライフサイクルCO2という考え方です。

今回の企画を行おうと思った動機は何ですか？

最初のきっかけはRAの選考に落ちてしまったことです。そこで自分がWISHに対して何も貢献していないことに気づきました。そのことをRAさんに相談した時、SIの企画を勧められ、今回のSIプログラムの企画を決めました。そこで自分が何ができるのかと考えた時に自分は建築学科なので建築関係のSIができたらいいなと考え、建築に着目した今回のSIを開催しました。

企画の際に大変だったことは何ですか？

田邊先生を呼ぶことはスムーズに決まりました。しかし、SIで寮生にどのような学びを与え、どのようにしたら楽しくできるかを考えるのが大変でした。

今回のSIの感想と読者へのメッセージをお願いします。

SIの企画を通して、企画やレジデンスセンターとの連携など大変なことをこなしているRAさんの裏側を知りました。また、田邊先生にもいろいろな質問に答えていただいたので寮生にとっても満足のあるSIプログラムだったと思います。読者へのメッセージとしては、WISHでの限られた時間の中で多くのSIに参加してほしいです。そして、自分自身でSIを企画して、WISHに置き土産を残したら、満足感のある体験の一部として残せると思います。

# 上野公園イベント

けんと（商学部）



11月8日に今年度初めてのWISH対面イベントである「上野公園へ行こう！」が行われました！当日は天気にも恵まれ、多くの参加者が階をまたいだ交流を楽しみました。

このイベントは7つの班に分かれて、上野公園を散策して、決められたスポットでお題に沿って写真を撮るというものでした。RAの琴線に触れるような写真を撮った上位3班にはRAから景品が贈呈されます。ちなみに私は1班だったのですが、上位3班に選ばれ景品をいただきました！どの班も工夫を凝らして、面白い写真や綺麗な写真を撮っていました。



写真を撮るのはもちろんですが、今回のイベントの醍醐味は何といても寮生同士の交流ではないでしょうか。コロナ禍に対面の活動ができていなかった中で、今回のイベントは寮生にとって非常に良い機会になったのではないのでしょうか。気の合う友達を見つけたり、普段なかなか話すことのできない他の階のRAと話すことができたり、収穫は人それぞれだったと思います。このイベントをきっかけに寮生同士の交流が活発になればいいですね。



これからどんどんWISHの対面イベントが開催されていくと思います。今回参加できなかった方も次回以降のイベントに参加して、交友関係を広げていきましょう！



ライター：Moeka, Yukie

デザイン：Yukie

翻訳：Ryoei

連載企画

# RA's ライフを覗き見！

今月号から始まりました、連載企画『RA'S ライフを覗き見！』。このコーナーではRA一人一人にスポットライトを当てて、趣味や特技を紹介していこうと思います。記念すべき第一弾は『RAの日記』を紹介します。8階RAのみゆみさん（SILS4年）と9階RAのなおさん（PSE3年）が協力してくれました！それぞれRA活動や卒論、インターンなど日々多忙な生活を送っていますが、お二人とも『日記を書く』という共通の趣味を持っています！そんなお二人にインタビューと共に日記帳の中身を特別に見せていただいたので紹介します！



なお



みゆみ

今回はこの二人

## 9階 なお



ー始めたきっかけ、時期はいつですか？

日本の中学を卒業して高校1年生の時、フィリピンのインターナショナルスクールに通い始めた時、毎日がとても充実してたので、日々感じる幸せな思いや人にしてもらったことを忘れたくないなと思って始めた。あと転校先でも絵を褒めてもらうことが多かったの  
で！それがモチベだった！

ー普段どんなことを描いていますか？  
美味しかったもの、面白かった本や人、このマインドは大事にしたいなという言葉、ふと浮かんだいかれたアイデアとか！

ー日記を書き始めて生活で変わったことは？

小さな幸せに感謝できるようになったのと、自分はこれでいいんだ、って前を向いて生きようになったかな。

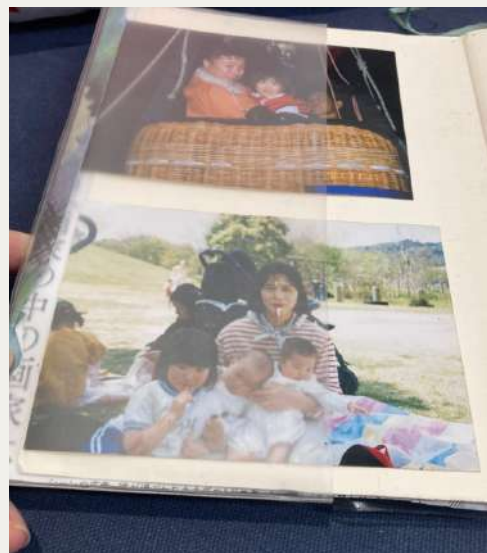
ーみんなに伝えたい日記の魅力は？  
好き嫌いあるだろうからおすすめはしないけど、自分の思い出が形に残るのはなんかいいよね！

ー手帳や文房具のこだわりは？

Marks.incさんのedit手帳！大きいとページ埋めることが大変だから携帯のサイズがいい！それからペンはかなり細めの物を使ってる。

ー自分にとって日記とはなんですか？  
色んなことのきっかけ？かなあ、愛用する手帳の会社の人にインタビュしてもらう機会があったり、友達との話題だったり、色んなチャンスが舞い込んでくる気がする

編集者からのコメント  
なおさんの手帳を拝見させていただきましたが、一つひとつ丁寧に描かれていて温もりを感じました。絵心が全く無い私には、なおさんが羨ましい限りです。これからももっとなおさんの魅力的な絵日記を寮生たちに広めていきたいです！貴重なお時間ありがとうございます！（もえか）



「始めたきっかけ、時期はいつですか？」

「留学中に、毎日が新しい発見だったので、それをきちんと書き留めようと思ったのがきっかけ。そして海外は大学歴が違うので、3月に手帳が終わってしまっても、ないなら作ろう!とずっと気になっていたバレットジャーナルを始めた!」

「普段どんなことを描いていますか? 何でも! 楽しかったことも、反省も、予定も、レシピも。日記の一番後ろには気になった映画、本もメモしてるかな。でもそれだけじゃなくて、母からの贈り物を届けてくれた切手とか、美術館のチケットとか、その日のハイライトを形に残せるものはできるだけ残してる。余裕のある月は絵日記もしたよ」

「日記を書き始めて生活が変わったことは?」

「うーん、趣味がこれって言うようになったこと? 今まで自分の趣味に答えられなくて。でもね、一から手帳をデザインするようになったのでモダンカリグラフィとか手帳から派生した趣味が生まれて、周りの人に喜ばれることが増えたのですごく嬉しいと思う」

「みんなに伝えたい日記の魅力は? 忘れたくないこととか、大切にしたいものを目に見える紙に残すって素敵だと思う。」

「最近知ったんだけど、「夢を叶える手帳」っていうのがヒットしてるんやっ! 私はそのふうには使ってる意識は無かったけど、行きたいところはいっぱい書き留めて、日常的にスパイスを与えてくれる存在にもなる気がする。」

「手帳や文房具のこだわりは? 文房具はあまりこだわってないけど、モダンカリグラフィをするから、月の文字だけは丁寧に、好きな色で書く! 表紙も気分によって変えるかな。」

「自分にとって日記とはなんですか? もちろんそれぞれの日記の使い方があるのを前提に、日記はいつも私を応援してくれる存在。だから大切な家族の写真も入ってる。小学校の時、アンネの日記を読んで、アンネが日記に名前を付けて呼びかけるような文を書くんやけど、あの時はなんか不思議は女の子やなく名前つけるなんて、って思ってたけど、今なら少しわかるかもしれない。日記は私を応援してくれる存在で、開いたら私の今までの努力も成長も全部書いてあるし、その時の感性もずっと輝いて残っている。なくてはならない存在!」

編集者からのコメント

「みゆみさんは日記を通して、小さな出来事や感情も大切にされているのだなあと感動しました。忙しい時こそ一度立ち止まって、日常に溢れる幸せを日記に綴っている姿が素敵でした。みゆみさんありがとうございます! (ゆきえ)」

# 12月お悩み相談コーナー

あなたのお悩みをRAが解決

## Q1

ニックネーム：ナルガクルガ

【つらい】

私は少しのことでイライラしてしまいます。もっと寛容に受け流したいなあと常々思っているのですが、中々上手くいきません。本当にどうしたら良いのでしょうか？

### RA Moeka

私も些細な事でイライラする時はあります！寛容力が低下している多くの場合は、疲れが溜まっていたり、あることによって他人や自分を責めてしまっているのではないかと感じます。こういう時こそ周りを気にすることを止め、自分をケアするために一度「お休み」してみてもはどうでしょうか。好きな事をしたり、美味しいものを食べたり、運動をしたり、とりあえず目の前の刺激から離れてみるのをおすすめします。完璧な人は存在しないし、他人を変えることもできません。「こういう人もいるんだね～」くらいの気持ちで自分に優しくなる事で他人にも寛容的になれると思います！

### RA Yukie

イライラしてしまう自分を責めずに「今日ちょっと寝不足かな？」ぐらいに考えると気持ちが楽になるはずですよ！もっと寛容になりたいと思っている時点であなたは変わり続けているし素敵です。

### RA Yuma

まずは将来やりたいことややりたい姿を明確にしましょう！そうすることで、今すべきことが見えてくるのではないのでしょうか。理系の専門性を高めるか様々な学問に触れるか、人それぞれ答えが違ってきます。

### RA Yukie

たとえ研究者にならずとも、理系で培った論理的思考力は色々な場面で生きてくると思います！！



## Q2

ニックネーム：夏's

【理工系なのに、理系に興味を持ってないです】

理工学部には所属しているのですが、理系の科目や、実験に興味を持ってません。なんだかどの教科も、全て研究者のための学びに感じてしまい、研究者になることを考えてない私的には楽しくなく、意義を感じられません。加えて難しいのも、興味を持ってない理由かもしれません。こんな私は今後どのような教科を取るのかが合っているのでしょうか。また、どのようにこれらの教科に向き合えば良いのでしょうか。



# Q3

ニックネーム：4階の住人A

## 【おしるこ】

最近、近くの自販機に缶のおしるこが無くて寂しいです。地元にはよく売っていて、故郷の味が東京で味わえずもどかしい日々を送っています。ぜひ、WISHの自販機におしるこを入荷して、同じ思いを持った人々に少しでも故郷の懐かしさを感じて欲しいと思います。ぜひ、ご検討のほどよろしくお願ひします。



## RA Moeka

私もおしるこ大好きです！冬の寒い日には、よくおばあちゃんが作ってくれたおしるこを思い出します...ぜひWISH自販機に入荷して欲しいですね！ちなみにWISHから早稲田通りを中野駅方面に2分ほど進むと、「日本調剤 中野薬局」の横におしるこが販売されている自販機を発見しました！



次回のお悩み相談コーナーもお楽しみに！

ライター：Moeka, Yukie  
デザイン：Yukie  
翻訳：Seima

# Contributions

## Writers



Haruka



Daichi



Kento

## Translators



Naomichi



Toshiki



Yui



Ryoei



Seima

## Designers



Mei



William



Tina



Ainun

## RA Supporters



Satoshi



Yukie



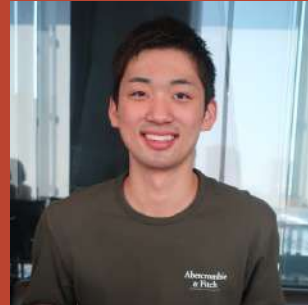
Moeka



Miyumi



Renuka



Yuma



Nao